

基本構想検討シート

テーマ：子どもの未来と文化をはぐくむまち ～子どもが健やかに生まれ育つことへの支援～

10年前の書きぶり（4次長計）		
構想レベルの課題	構想レベルの方針	方針に基づく基本事業（参考）
① 仕事と子育ての両立は依然として大きな課題とされています。一方で、少子化や核家族化が進み、孤立した子育て環境による母親の育児不安・ストレスが社会問題になっています。その一因として、家庭や地域が従来持っていた、子育てにかかる問題解決や相互支援の仕組みが弱体化していることが挙げられます。	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが安心して子どもを生き育てることができ、子ども自身ものびのびと健やかに成長することができる環境づくりを進めます。 ・関連機関との連携のもと、子育て家庭が必要とする保育や、子育てに関する情報、サービスの提供を進めるとともに、地域社会において、子どもたちの健全育成を支える基盤の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> □保育サービスの充実 □親と子の健康の確保及び増進 □子育て家庭の経済的負担の軽減 □家庭・地域における子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地区青少年健全育成協議会による児童の健全育成の活動支援 ・地域活動事業の充実 ・子ども家庭支援センターの機能充実 ・地域子育て支援センターでの子育てに関する情報提供、相談支援 ・地域の施設などと連携した子育て支援 ・子育て中の親子や妊婦への情報提供、相談・援助 □支えが必要な子どもと家庭への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・就業と子育てを両立させていくための支援 ・ひとり親家庭などに対する自立に向けた支援 ・個々の家庭の状況に応じた情報提供・適切な相談機関への引き継ぎ ・個々の家庭の状況に応じた総合的な就労支援
② 子どもが健やかに生まれ育つことができる環境を、保健、医療、福祉の連携のもと、地域全体ではぐくんでいくことが必要です。		

このテーマについて現状の課題などを書き出してみると・・・

5次長計	
以下、「施策の評価・検証」、「基礎調査データ」、「市民・団体アンケート」より課題などを抜粋しています。	今の課題、方向性に対するキーワードは
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の待機児童は、平成 29 年度中（平成 30 年度当初まで）に 106 名の定員拡大を行い、待機児童が 38 名となる一方、保育所等の定員の空きは 97 名分であった。 ・さいわい保育園の民営化園を平成 29 年 4 月に開所した。 ・学童保育所は平成 29 年度末時点では待機児童が解消されている。 ・育児不安、家庭環境の問題、保護者の精神疾患や虐待等でフォローが必要な家庭が増加している。 ・乳幼児健診は 95.4%と高い受診率で推移しているが、一定数未受診もある。未受診理由としては、多忙やかかりつけ医で受診中など多いが、中には虐待が疑われることもあり、関係機関とも連携しながら未受診者フォローを継続していく必要がある。 ・妊娠・出産・子育て情報を携帯メールで配信する「子育て応援メール配信事業」を実施している。 ・新生児訪問、乳幼児健診等で事後フォローが必要な母子や多問題家族、虐待等が増加している。 ・健康課窓口では妊娠届出をした方には保健師による面接を行っている（妊婦全体の 2 割）が、市民課等窓口では面接が実施できていない。ハイリスク妊婦を早期から把握し支援できるような体制づくりが課題である。 ・児童の養育者への経済的支援を行う児童手当の受給者数は横ばいで推移している。 ・保育施設において園庭開放等の地域活動事業を行い、各家庭の子育てを支援する必要がある。 ・子ども家庭支援センターは、児童虐待が増加する中、職員体制の強化や迅速な対応などが求められている。 	<p>ご意見を準備していただくためのメモ欄です</p> <ul style="list-style-type: none"> ■保育サービスの充実では、 ■親と子の健康の確保及び増進では、 ■子育て家庭の経済的負担の軽減では、 ■家庭・地域における子育て支援では ■支えが必要な子どもと家庭への取り組みでは、 ■このテーマに欠けている視点は、
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園入所児童数の推移は増加傾向にある。 ・保育待機児童の推移は、平成 21 年以降、減少傾向にある。 ・児童館・学童クラブともに年少人口 1000 人当たり施設数は 26 市平均をわずかに上回っているが、年少人口 1000 人当たり定員数は 26 市平均をわずかに下回っている。 ・私立幼稚園の園児数は、平成 25 年から減少傾向にある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・33.9%の市民が市の目指すべきまちの姿として「子どもを大切にする、子育てや教育の充実したまち」と答えた。 ・本施策に市民の 18.0%が満足、22.8%が満足していない。 ・本施策を市民の 76.5%が重要と考えている。 ・市民が考える優先すべき取組みとして、「保育施設のサービスの拡充」、「学童保育所の施設・設備・機能の充実」、「出産・子育ての不安解消・孤立化防止」、「就学と子育ての両立支援」、「子育て家庭の経済的負担の軽減」の順で高くなっている。 ・企業・団体からは、重点を置くべき取組として、「子育て支援」が挙げられた。 	